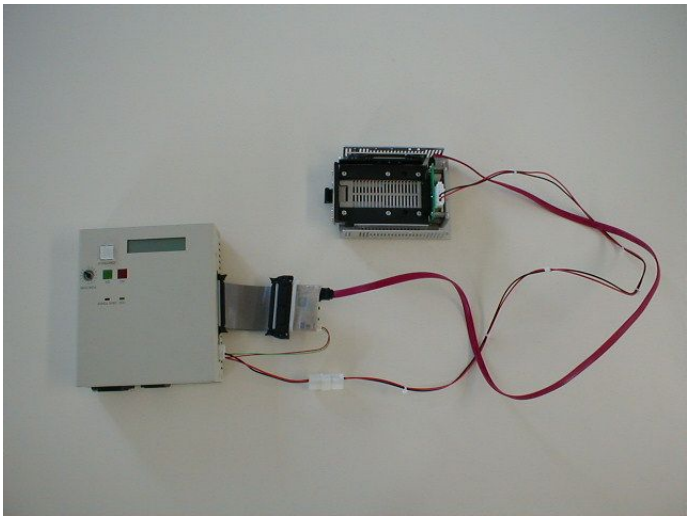
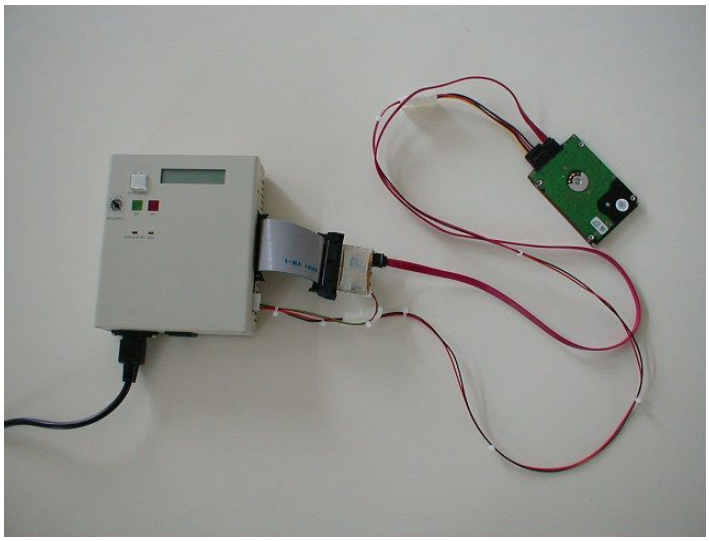
Quick Tester 用　PATA→SATA 変換アセンブリキット
取扱説明書





OM０９０１６３

版数 03 2009/12

製品の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

記載の製品名ならびに社名は、一般に各社の商標または登録商標です。

株式会社　三興電子

１．概　　要 3
２．Quick Tester 用 PATA→SATA 変換アセンブリキットケーブル接続方法 3
2-1. SATA 用テストフィクスチャを使用した場合のケーブル接続 3
2-2.　HDD の装着方法 4
2-3.　　SATA 用コネクタの位置調整 5
2-4. SATA 用テストフィクスチャを使用しない場合のケーブル接続 6
３．変換ボード仕様 7
3-1. パラレルインターフェイス転送モード 7
3-2. Serial　ATA　Interface　Rev1.0 準拠 7
3-3. PATA→SATA 変換 IC 7
４．SATA 変換ボード使用時の注意事項 7
4-1. SATA 変換ボードは、ULTRA　DMA 転送を伴うコマンドでは、ドライブに 7
4-2. SATA 変換ボードは、「OPERATING MODE=STS」を実行して BUSY の OFF を. 7

１．概　　要

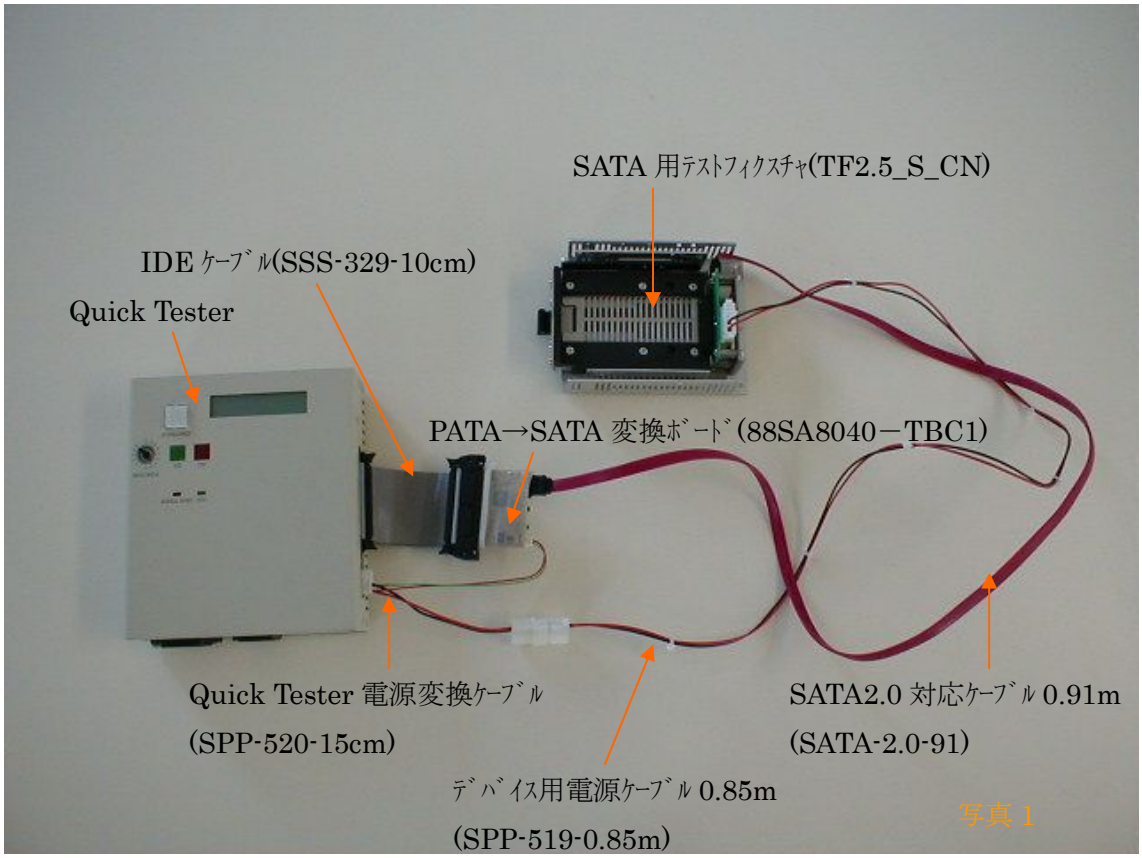
Quick Tester 用 PATA→SATA 変換アセンブリキットは、2.5 ｲﾝﾁ SATA 用ﾃｽﾄﾌｨｸｽﾁｬ、P-ATA→SATA 変換ボード、各種ｹｰﾌﾞﾙをセットにしたもので, ﾃｽﾄﾌｨｸｽﾁｬを使用する場合としない場合の 2 種類を選択できます。

このキットは、Quick Tester で動作確認試験を実施していますので安心して SATA HDD の評価を行うことが可能です。

2.5 ｲﾝﾁ SATA 用テストフィクスチャは、SATA　HDD のための装着治具で、HDD をトレーに乗せてレールで押し込めば SATA のコネクタに簡単に挿入できロック機構で固定されます。抜く場合は、ロックを解除後、押さえ板を引き出せば簡単に抜くことができます。3.5 ｲﾝﾁ用の SATA 用テストフィクスチャも選択できます。

２．Quick Tester 用 PATA→SATA 変換アセンブリキットケーブル接続方法

2-1. SATA 用テストフィクスチャを使用した場合のケーブル接続



(　)内は、型格です

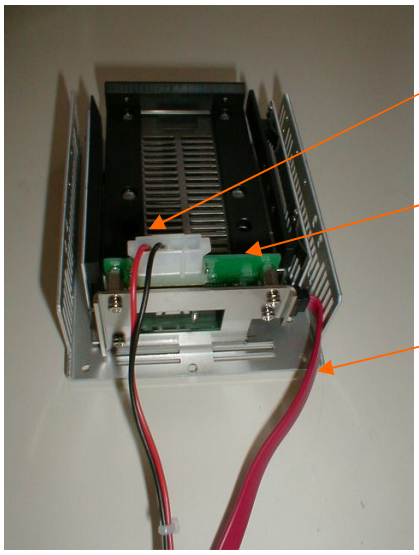


写真 2

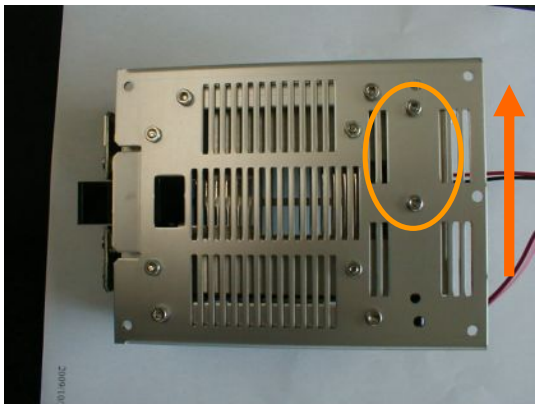


写真 3

SATA 用ﾃｽﾄﾌｨｸｽﾁｬの SATA ｹｰﾌﾞﾙは、写真 3 の楕円で示しましたビス 2 本を六角レンチで緩め矢印方向にスライドさせてからでないと容易に外れませんのでご注意願います。
また、この操作を行った後は SATA　HDD とスライドの位置合わせが必要です。

2-2.　HDD の装着方法

2.5 ｲﾝﾁ SATA　HDD を用テストフィクスチャを写真 4 の様にコネクタ側を下にしてトレーに乗せてから矢印の方向に押し、写真 5 の様に奥まで挿入して下さい。下さい。
HDD を持つ場合は、必ず側面で持って下さい。

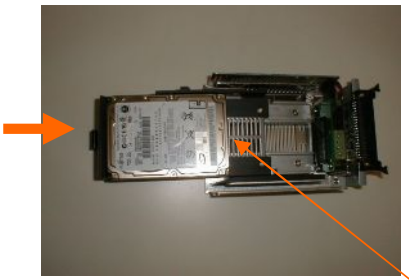


写真 4

写真 5
SATA　HDD のコネクタ

2-3.　SATA 用コネクタの位置調整

写真６

横方向の調整
２．５の６角レンチで、この２本のネジをゆるめて横方向の位置を調整して下さい。

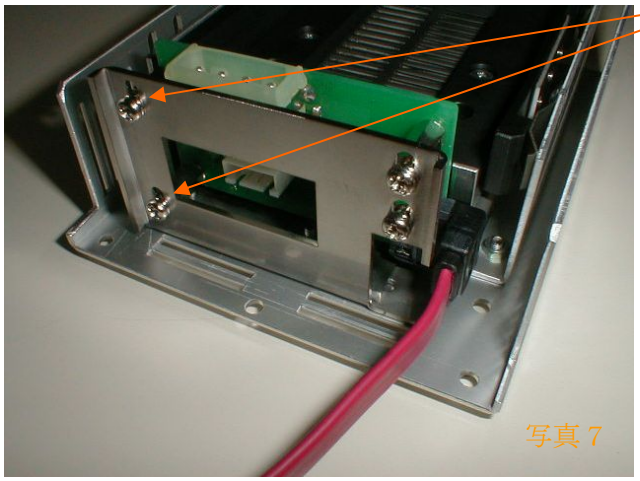


写真７

縦方向の調整
背面の変換ボードを外して下さい。次に、M3 用のプラスドライバーで、この４本のネジをゆるめて縦方向の位置を調整して下さい。
縦方向は、共通ですのでほとんど調整は不要です。

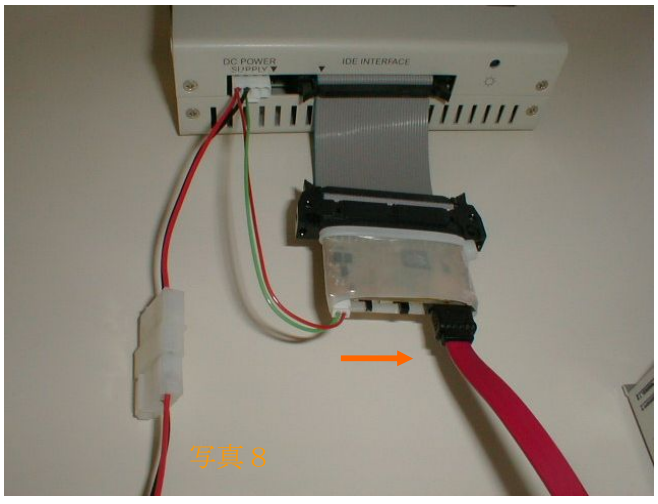


写真８

Quick Tester 電源変換ｹｰﾌﾞﾙの詳細写真

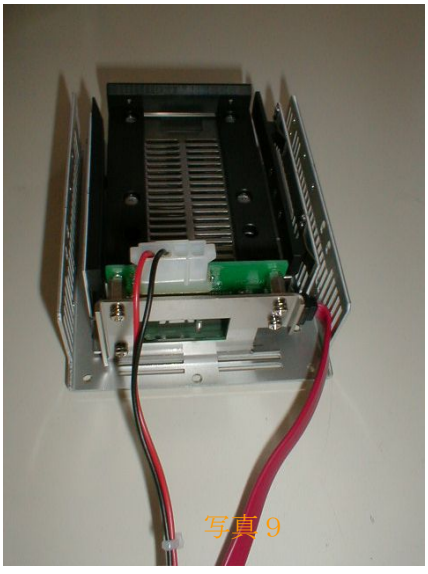
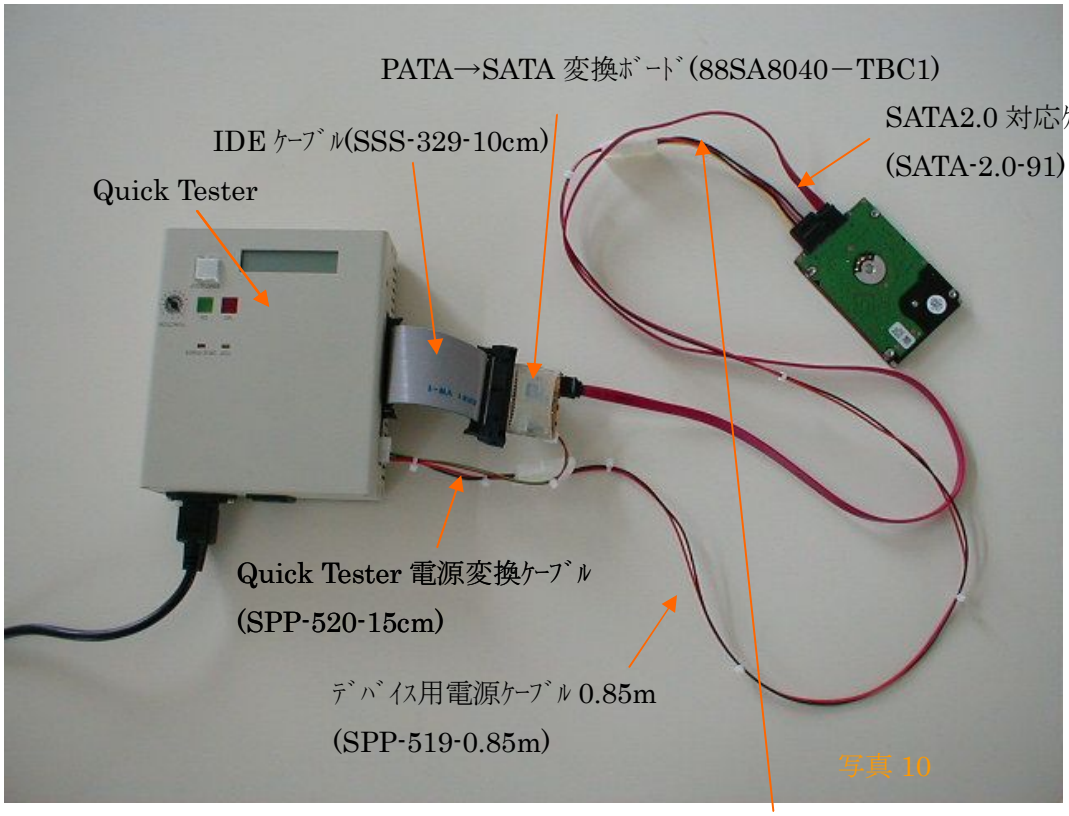


写真９

SATA 用ﾃｽﾄﾌｨｸｽﾁｬの詳細写真

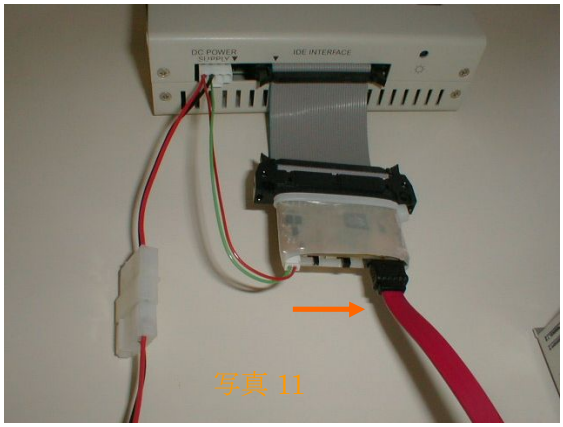
PATA→SATA 変換ﾎﾞｰﾄﾞのｽﾗｲﾄﾞｽｲｯﾁは、写真８の様に２つ共矢印方向（右側）です。
この構成でＰＡＴＡ，ＳＡＴＡ　ＨＤＤの動作を Quick Tester で確認済みです。

2-4. SATA 用テストフィクスチャを使用しない場合のケーブル接続



( )内は、型格です

電源ケーブル(AMP 4pin-SATA)
(SPP-521-0.15m)



Quick Tester 電源変換ｹｰﾌﾞﾙの詳細写真

PATA→SATA 変換ﾎﾞｰﾄﾞのｽﾗｲﾄﾞｽｲｯﾁは、写真 11 の様に 2 つ共矢印方向（右側）です。
この構成でＰＡＴＡ，ＳＡＴＡ　ＨＤＤの動作を Quick Tester で確認済みです。

各ケーブルの長さは、お見積りの際ご指定願います。

３．変換ボード仕様

3-1. パラレルインターフェイス転送モード

PIO ０～４、ULTRA DMA ０～６

3-2. Serial ATA Interface Rev1.0 準拠

最大転送速度 1.5Gbps

3-3. PATA→SATA 変換 IC

Marvell 社製 ８８SA８０４０－TBC1

４．SATA 変換ボード使用時の注意事項

SATA 変換ボードを使用して SATA ドライブを動作させる場合、以下の条件では
正常に動作致しませんので予めご了承願います。

4-1. SATA 変換ボードは、ULTRA DMA 転送を伴うコマンドでは、ドライブに

コマンドを発行後に BUSY が OFF されませんので、コマンド発行後に BUSY の OFF をチェックしないモードで実行しないと Data is Difference のエラーが発生致します。BUSY の OFF をチェックしないモードは、SCH コマンドを実行する前に「OPERATING MODE=STS」コマンドを記述する事で可能です。
「OPERATING MODE=STS」の詳細はテスタプログラム言語取扱説明書を参照して下さい。
PIO 転送時は、「OPERATING MODE=INTPS58」に戻して下さい。

4-2. SATA 変換ボードは、「OPERATING MODE=STS」を実行して BUSY の OFF を

チェックしないモードで DMA 転送を伴うコマンドを実行しても以下のデータ転送モードでは正常に動作致しません。

- Multiword DMA のライト及びリードで Busy のエラーが発生します。
  これは DMAREQ が DMACK がネゲート後、規定時間以内にネゲートされないためテスタは、次のデータ転送に移行してしまうためです。